

フランスの初等教員採用試験における音楽聴取審査の実状 —音源資料と『報告書』に見るアカデミーの方針について—

吉澤 恭子

音楽教育講座

De l'épreuve d'écoute musicale au programme du concours de recrutement de professeurs des écoles de France —état de la question à partir d'une étude des documents sonores et après examen des rapports académiques de jurys—

Kyoko YOSHIZAWA

Department of Music Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

はじめに

本稿は、フランスの初等教員に求められる音楽能力に関する一連の研究において、初等教員採用試験の「音楽聴取審査」に焦点をあてたものである。

現在、フランスの初等教員採用試験 (Concours de recrutement de professeurs des écoles, concours externe, 以下 CRPE) における音楽試験は「演奏」と「面接」で構成されている。前半の実技試験に続き、後半の面接では受験者の音楽に関する知識・教養、そしてそれらを初等教育の実践においてどのように結びつけることができるか、という観点から、教員としての能力・資質が審査の対象となるが、面接開始時に試験官は、受験者が実技試験で演奏した曲と異なるジャンルの「音源資料」(un document sonore) を選び、聴かせることで受験者の音楽聴取力を審査する。本研究の主な目的は、この聴取審査で使用される「音源資料」およびアカデミー (大学区) の審査方針の実状を概観することである。

2010/2011年度以降、新体制による初等教員採用試験が実施されているが、面接時間が15分から10分に短縮された点以外、2005年改訂「初等教員採用試験要項」に示す音楽試験の内容・構成に変更はなく、審査の本質は変わっていない¹。従って考察にあたり、2005年改訂「初等教員採用試験要項」が施行された2005/2006年度から2012/2013年度までのCRPEの年度報告書 (Rapports du jury / Rapports de(s) jurys, 以下『報告書』)²を対象とし、加えてCRPEの国家政策や審査に携わった関係者とのインタビューをとおして得られた資料・

情報をもとにしている。文中の引用文の出典に関して、便宜上『報告書』を作成・公表したアカデミーの名称、CRPEの実施年 (Session), 頁順で記載する。例: (Amiens, 2012, p. 12) は「アミアン・アカデミーが作成・公表した2011/2012年度実施CRPE報告書の12頁」を示す。フランスでは9月から翌年8月までを学年度とするため、年度は2ヶ年の表記となる。従ってCRPEに記載されているSession 2012とは、2011/2012年度実施を意味する。

1. 国家政策としての『音源資料データ集』の編纂

CRPEは各アカデミーによって実施・運営されているが、音楽聴取審査には「音源」が不可欠である。審査で受験者が聴く音源は、どこから選出されているのか。リル・アカデミーの『報告書』では、2005/2006年度に新体制となった状況下で着想された120曲の音楽作品の抜粋を収録した「データベース」(une banque nationale) から選出されているとし、音源資料のデータベースの存在を周知している (Lille, 2006, p. 23; 2007, [p. 56])。その様相について「抜粋曲の長さは2分30秒を超えない。あらゆる音楽スタイル、ジャンル、時代、地理的にも広い視野をもち、声楽、器楽、あるいは両者混合編成で構成されている音源集である。異なる国々 (モンゴル、ペルー) の伝統音楽、現代音楽 (器楽、声楽)、ジャズ (スタンダード、即興)、バロック (ミサ、トッカータ、合奏協奏曲)、古典派 (弦楽4重奏、交響曲からの楽章)、ロマン派 (交響曲からの

楽章, オラトリオ), 近代の描写音楽(歌曲, 室内楽), 子どもの作品, シャンソン(レオ・フェレ, William Sheller), あらゆる時代のダンス音楽(ジグ, ブール)と他のスタイル(ポロネーズ, マズルカ), 映画音楽(E. Moricone, Hartman), 器楽曲を声楽曲版に編曲した作品(スウィングル・シンガーズ), ロックなどが挙げられる(Lille, 2006, p. 23; 2007, [p. 56])と紹介されている。またモンペリエ・アカデミーの『報告書』では「試験官に提案された曲は, 一見したところ受験者にとって未知な曲であるが, これらは「データベース」(une banque de données)からの音源である。時代, ジャンル, スタイル, 多様な視野で集められている(Montpellier, 2011, p. 44.)」と記述されているように, 国家政策として編纂された音源資料データベースの存在が明らかとなった。

(1) 『音源資料データ集』の概要

2005/2006年度から新初等教員採用試験制度の施行を機に, 音楽聴取審査のための *Banque nationale de documents sonores 2006* (以下, 『音源資料データ集』) が, 2006年にパリ・アカデミー視学官V.マエストラッチ氏の権限下, アカデミー視学官, 現職教員や教育顧問(conseiller pédagogique)を含む有識者グループによって編纂された³。『音源資料データ集』は, 全国共通のレベル基準を示す模範的音源選集である。試験官が聴取審査時に使用できる目的として全アカデミーに配布され, 2005/2006年度以降の面接試験で使用されている⁴。

上述したリル・アカデミーの報告による120の数値と一致しないが, 『音源資料データ集』は全201曲で構成されている。6枚のCDが存在し, 1枚のCDにつき26曲から40曲の音楽作品の抜粋が収録されている。1曲の収録時間は約1分から2分半, 最も短い曲で48秒, 最も長い曲で3分34秒である。CDの収録順の設定基準やその方針は不明であるが世界の民族音楽を冒頭に, 中世, ルネサンス, バロック, 古典派, ロマン派, 20世紀の古典・西洋音楽, ポピュラー音楽・シャンソン, 現代音楽, 電子音楽, ジャズ, 映画音楽, テクノ, ワールドミュージック(伝統音楽, ヴァリエテ), ロック, ジャズなど非常に多種多様な音楽が含まれている。『音源資料データ集』にはCDの他に, 曲目毎にA4用紙1枚, 試験官が参照すべき解説書に相当する「教育カード」(Fiche pédagogique)⁵が用意されている。教育カード全体の目次に相当する曲目一覧表には, 作曲家・演奏家名等, 曲名, 時代・様式・ジャンル・特徴, 注目すべき演奏形態や編成, キーワード等が記され, さらにこのデータ集編纂のために音源資料を提供したと思われるアカデミーの略語とデータベース出典番号(Réf fichier)が明記されている。それによると7アカデミー(エクス=マルセイユ, カン, クレルモン

=フェラン, リル, リヨン, モンペリエ, ニース)が協力したことが確認される。

(2) 音楽聴取審査における選曲の実状

『音源資料データ集』は聴取審査で活用すべき抜粋曲集であるが, 試験官は以下3つの基準を念頭に置き, 適切な選曲をしなければならない。

- ・一貫したまとまりを形成する重要な音楽作品の抜粋。さもなくば少なくとも, 美的観点から見てそれを特徴づける要素を形作っている音楽作品の抜粋。
- ・少なくとも容易に識別されうる特徴的な要素を一つもっていること, その要素とは, 音楽分析のカギを握る4つの重要要素(空間, 時間, 色, 形式)の一つに属する。
- ・少なくとも, 聴き手にとって, 十分に, 容易に記憶可能とさせる音楽的対話の要素があること。そうした要素を素早くつかむべき受験者自身の聴取力を, 教育的展望で活用させるためである。

出典:『報告書』(Lille, 2006, p. 23; 2007, [p. 56]; 2008, [p. 57]; 2011, [p. 30/40]; 2012, [p. 38/59]; Strasbourg, 2007, p. 40; 2008, p. 40; 2009, p. 42; Paris, 2010, p. 76/96)。

しかし初等教員採用試験では, こうした条件をクリアしていれば『音源資料データ集』以外の音源使用も可能とし, 選曲の判断基準は各アカデミーの試験官の裁量に委ねられているようである⁶。

『報告書』に聴取曲リストを掲載することは, 国の内部資料である『音源資料データ集』の一部を公開することに他ならないが, 事例の参考となろう。リモージュ・アカデミーは, 例外的に2ヶ年分(2007/2008年度および2008/2009年度実施)の演奏曲と聴取曲一覧を公表している(資料1・2を参照)。聴取曲の選出規定, すなわち「前半の実技試験で演奏した曲と異なるジャンルの音楽を選ぶこと」に従い, 実に多種多様な曲が受験者に提案されている。

2005/2006年度から2011/2012年度に至るまで『音源資料データ集』の音源の再編および教育カードの改訂はなされていない⁷。しかし, データベースの充実化が図られている。『音源資料データ集』の収録曲とリモージュ・アカデミーの審査官が選出した曲名を比較検討した結果, 2つのことが明らかになった。一点目は2ヶ年実施全63曲のうち, 曲名情報が不完全であった10曲を除き16曲が『音源資料データ集』に収録されている曲名と一致し, 残りの36曲(2007/2008年度実施の同一曲《ハイチの伝統的な歌》を除く)は『音源資料データ集』に収録されていないこと, 二点目は資料2(2008/2009年度)に記す音源(CD番号-録音番号)が『音源資料データ集』の番号と一致しないことである。演奏曲と聴取曲一覧を『報告書』に執筆したリモージュ・アカデミー視学官A.デファイ女史と審査に関わった音楽教育顧問Y.ブリアンスレ氏によれば, 2008年に数百曲のデータベース(約10枚のCDが存在)が新たにアカデミーに配布され, 2007/2008年度から新音源データ集が使用されていることが分かった⁸。一

方、クレルモン＝フェラン・アカデミーは、2010/2011年度から2012/2013年度まで聴取審査で使用した曲名を公表している(資料3を参照)。3ヶ年全35曲のうち、曲名の記載情報が不完全であった4曲を除き12曲しか『音源資料データ集』に収録されていない。そしてこの2つのアカデミーの審査官が選出し、『音源資料データ集』に収録されていない曲の中に5曲(《Faut de l'eau》《J'ai deux amours》《La poule》《フーガ ト短調》《Tickle Toe》)の共通曲が確認された。

2. 『報告書』に見る音楽聴取審査の方針

試験官は3名で構成される⁹。『報告書』では抜粋曲の条件を含む、音楽聴取審査の進め方に関する一般的な方針について、次のように説明されている。

抜粋曲は、面接官との対話、意見交換を優遇させるために、おおよそ2分30秒を超えない曲を選ぶのが好ましい。受験者は少なくとも2回聴取する機会が与えられるが、2回目は部分的な聴取となる。曲の聴取以外、補足的な資料は与えられない。しかし試験官は曲名、作曲家(作者)名、創られた時代を受験者に伝えることに気を配り、場合によっては面接を方向づけるために情報を与えるかもしれない。

出典：『報告書』(Lille, 2006, p. 23; 2007, [p. 56]; 2008, [p. 57]; 2009, [p. 65]; 2011, [p. 30]; Strasbourg, 2007, p. 40; 2008, p. 40; 2009, p. 42; Paris, 2010, p. 76/96)。

ここではアカデミーの音楽聴取審査に関する方針の実状について、2つの観点から整理する。

(1) 聴取時間と回数

受験者が演奏した曲との兼ね合いで、聴取曲は『音源資料データ集』の中から試験官の判断で選ばれた曲が受験者に提案される。聴取審査の進め方に関する一般的な方針として、選曲については「おおよそ2分30秒を超えない曲を選ぶのが好ましい」、聴く回数については「少なくとも2回聴取する機会が与えられるが、2回目は部分的な聴取となる」と上述した。しかし2010/2011年度から面接時間が5分短縮されたことに伴い、聴取時間に関するアカデミーの方針として、2分以内または3分以内に収めるべきとする二分化された共通認識が見られる。例えばモンペリエ・アカデミーの場合、1分から1分半の音源を2度受験者に聴かせ、最大聴取時間を3分以内としている(Montpellier, 2011, p. 43)。クレルモン＝フェラン・アカデミーの最近の傾向として、1分から1分半の音源を2度聴かせ、最大聴取時間はモンペリエ・アカデミーと同様に3分以内。その後、受験者による説明が約2分、聴取曲を用いて初等教育の内容に適用可能な実践例を提案するプレゼンテーションの時間を5分から6分とし、10分の面接時間の細分化が図られている(Clermont-Ferrand, 2011, p. 43; 2012, p. 39; 2013-1, p. 33)。一方、カン・アカデミーの場合、2011/2012年度の方針として聴取時

間は1分半から2分と明記されている(Caen, 2012, p. 6)。リル・アカデミーでは「聴取時間は2分を超えない程度、音源分析と教育上の展開説明が約2分、残りの5分から6分は受験者が提示した視点を試験官とともに深める時間に充てている(Lille, 2012, [p. 38/59])」とし、クレルモン＝フェラン・アカデミーと比べて聴取時間が1分程度短い上に、聴取後の展開と受験者とのコミュニケーションをより重視する方針が感じられる。

現実的に「音楽自体を圧縮して聴くことは不可能である。審査官が提案する2回目の聴取では、抜粋曲の全体を聴くことはほとんど不可能である(Nancy-Metz, 2012, p. 16)」ことは容易に推察される。このような状況で「受験者は少なくとも2回は聴き、説明することができた。1回目は抜粋曲の全体、2回目はその一部である(Lille, 2007, [p. 56])」との報告から、一般的に2度の聴取機会が与えられているように思われる。しかしいくつかの『報告書』では「1回の聴取で説明できる受験者もいるが、2度目の聴取を願い出た受験者もいる(Lille, 2006, p. 23)」「多くの受験者は2回聴きたいと要求する。2度聴く機会が得られることは、音楽作品の本質をよりよく自分の中に浸透させるための切り札となる(Rennes, 2007, p. 46)」「44名の受験者のうち、9名だけが2回目の聴取を願い出た。そのことを試験官は評価した(Lille, 2011, [p. 29/40, p. 31/40])」「1名を除き、他の受験者は2度聴きたいと申し出た(Amiens, 2012, p. 12)」といった記述があり、2回目の聴取は必ず実施されている訳でも、審査官に強制されている訳でもなく、受験者の反応や要望に応じて臨機応変に取り入れられていることが読み取れる。

(2) 聴取の進め方、その他の方針

1回目の聴取後、2回目の聴取を、面接全体のどの箇所に位置づけ実施するのか、また聴取と向き合う受験者に対する試験官の行為に関して、アカデミーによって多様な方針が確認される。一般的に「抜粋曲の全体を聴取後、続けて2回目の聴取が行われる(Rennes, 2009, p. 40)」ことと想定されるが「2回聴取することを勧める。2回目は1回目につけて聴くか、もしくは試験官の要求に対していくつかの概念を明確にさせるために、面接中に2回目を聴くように勧める(Grenoble, 2007, [p. 6])」場合もある。

その他の方針として、2点確認される。一つ目の方針は、聴取中、受験者にメモを取らせることである。約2分から3分間、音楽を聴き、耳の記憶力だけでその後の曲の説明やプレゼンテーションに挑ませるには困難に思えるのだろう。「聴取の際、音楽を2回聴くことが許可されており、受験者に聴きながら感じ取った事柄についてメモを取るよう勧めている(Grenoble, 2007,

[p. 6])「聴取の際、メモ書き用の紙を配布する。試験官はそれ以上のサポートはしない。音楽を聴きながらメモを取った内容が手がかりとなるだろう (Lyon, 2012, p. 15)」「初めは自らの耳を信じて、演奏形態(声楽あるいは器楽)を明らかにすること。同時に、場合によっては目印となる音楽の構成に注意すること。聴取では、メモを取ることは不可欠である(Nancy-Metz, 2012, p. 16)」といった報告から、聴取後のよりよい発表のためにメモを取らせるべきとする見解が示されている。

二つ目の方針は、先述した一般的方針の内容に確認されるように、いくつかのアカデミーでは曲名等の基本情報を受験者に与えていることである。「試験官は抜粋曲を聴かせる前に、曲の所要時間、曲名、作曲家名さらには演奏者名まで受験者に伝えることに注意を払う (Lille, 2011, [p. 30/40]; 2012, [p. 38/59])」とし、聴取開始前に情報を与える場合、「1回目の聴取後、試験官は曲名を受験者に伝える。2回目の聴取が可能である (Caen, 2008, p. 12; 2009, p. 17; 2010, p. 10)」「曲全体の聴取は、強く感じたことを述べることで、そして耳が識別したいいくつかの技術的要素を受験者に示してくれることを可能にする。そこで試験官は曲名と作曲家名、創作された時代を伝え、必要ならば、部分的であるが2回目の聴取を提案する (Grenoble, 2012, p. 14; 2013, p. 12)」とし、1回目の聴取後に情報を与える場合、「分析の際、受験者は試験官から曲名と作曲家名の情報が与えられる (Lille, 2012, [p. 39/59])」とし、聴取終了後に情報が与えられる場合もあり、アカデミーによって異なった方針が散見される。

3. 『報告書』に見る音楽聴取の講評

フランスの初等教員採用試験では、なぜ音楽聴取審査が課されているのか。『音源資料データ集』の編纂責任者、そして日本の『小学校学習指導要領』に相当する『初等学校プログラム』音楽教育分野の執筆責任者であるパリ・アカデミー視学官V.マエストラッチ氏は、インタビューの中で次のように述べている。「昔と異なり、子どもが音楽を聞くことは、たやすい時代である。現代社会において様々な音楽が氾濫し、様々なメディアの発展と普及から、音楽を聞く手段も内容も多様化している。こうした状況を鑑み、フランス国民教育省は早急に子どもたちに音楽を「聴く」ことを学ばせる必要があるとし、そのことを音楽教育のプログラムの内容に反映させている」¹⁰。このような見解から、社会をとりまく音環境や音楽を理解するために不可欠な聴く力が、児童の音楽学習を担う初等教員に求められる能力の一つとして重視されていることが分かる。

『報告書』では、音楽聴取の実践が導入される面接前

半について「試験官に提案された音楽作品の抜粋を聴取している間に、聴き取った事項、着目した事項について詳しく述べる場 (Nice, 2011, p. 11)」であると捉えられている。一方、試験官は受験者にとって未知な曲であることを前提に選曲するため「録音された音楽作品の発見と分析 (Montpellier, 2011, p. 44)」の場としても機能しているのだろう。しかし審査の評価項目に「試験官に提案された音楽を聴く力と聴覚による分析力 (Lille, 2008, [p. 57]; 2011, [p. 30/40]; 2012, [p. 39/59])」と記されているように、面接前半は「聴取」を媒介とした音楽技能審査である。

「現代音楽を提案すると、受験者はしばしば狼狽する (Besançon, 2008, [p. 18])」「幾人かの受験者は現代音楽の抜粋を提案され、途方に暮れている姿がしばしば見られる (Rennes, 2008, p. 45)」との実態から、耳にあまり馴染みのない、あるいは聴き方のノウハウを知らない現代音楽を避け、気嫌う傾向が見られるが、聴取審査は「音響に関するなぞなぞ遊びではなく、活動的な聴取 (écoute active) が必要とされる (Caen, 2007, p. 14)」とし、受験者にどのようなジャンルの音楽であれ積極的に聴こうとする姿勢が期待されている。音楽を聴くという技能の獲得を導く「活動的な聴取」を実践していくためには、聴き方の視点が必要となる。

(1) 着目すべき音楽要素

2008年9月から施行されている現行の『初等学校プログラム』の「音楽聴取」に関連する記述を確認すると、小学校1・2年生 (CP, CE1) では様々な実践をとおして、主旋律、リズム、テンポ、強さ、響きに関する非常にシンプルで特徴的な音楽要素を見出す練習と主要な楽器グループに関する学習が開始され、小学校3・4・5年生 (CE2, CM1, CM2) では聴取活動をとおして、時代と文化背景に応じたジャンルとスタイルの多様性を発見しながら音楽作品の比較学習が行われると同時に、その延長線上に、音楽を知覚・識別する力の育成が一層期待されている。

面接時に聴取した音楽は一瞬で消え去り、受験者は制限された聴取時間で音楽の本質や特徴を可能な限り捉えなければならない。多くの『報告書』では、そのための聴き方の視点や音楽分析のカギとなる重要要素 (paramètres) が挙げられている。2008年改訂『初等学校プログラム』適用前の『報告書』でも見られるが (例えばGrenoble, 2007, [p. 6]; 2008, [p. 67]; Clermont-Ferrand, 2008, [p. 11])、以下は、2008/2009年度以降の『報告書』で確認された聴取で着目すべき音楽要素に関する内容である。『初等学校プログラム』に示されている旋律、リズム、テンポ、強さ、響きを基本としているが、全体的に普遍性が認められる。

- ・作品が創られた時代、場所、スタイルを識別するために主要な音楽要素（旋律、特徴的なリズム、オスティナート、楽器編成、構成）を明らかにすること（Grenoble, 2009, p. 6/10; 2012, p. 14; 2013, p. 12）
- ・初等教育に適したシンプルな基礎項目として拍動、テンポ、拍動の不在（なめらかなテンポ）、オスティナート（Grenoble, 2009, p. 7/10; 2010, [p. 7]）
- ・シンプルな重要要素（テンポ、ニュアンス、リズム、拍動等）（Reims, 2009, p. 33）
- ・開拓すべき点として時間（リズム、拍動の厳格さ等）、空間（旋律、和声、音域等）、色（ニュアンス、演奏法、フレージング等）（Clermont-Ferrand, 2009, [p. 12]）
- ・主要な特徴（編成、リズム、テンポ、ニュアンス等）（Rennes, 2009, p. 40）
- ・構成と響き（声、楽器）の識別（Nantes, 2010, p. 37）
- ・スタイルあるいは形式、最も普通に用いられている重要要素（高さ、長さ、強さ、テンポ、テクスチャ等）に関する音楽学的語彙、最も広範囲な事項である楽器と声楽の編成に関する知識（Reims, 2010, p. 29）
- ・音の重要要素（高さ、響き、強さ、長さ）を考慮すること（Nantes, 2011, [p. 23/28]; 2012, [p. 16/24]; 2013, p. 3）
- ・旋律、リズム、楽器・声楽編成の区別、音楽形式等の主な特徴的要素を明らかにすること（Montpellier, 2011, p. 44）

(2) 推奨される音楽の聴き型

聴取後、受験者は音楽作品の分析結果を説明し始めるが、曲の聴き方はプレゼンテーションの仕方に影響を与えることは否めない。「聴き方として、曲の全体像と一般的な印象を把握することから、選択的な聴き方をする、つまり一般的な印象を確認しながら、響きの要素を識別することを受験者に要求する（Aix-Marseille, 2012, p. 10/10）」といった講評が見られる。これに類似した記述が、とりわけリル・アカデミーの『報告書』で確認される。リル・アカデミーでは、事前に聴取曲の情報を受験者に与えているにもかかわらず「試験官が与えた曲の情報（タイトル、時代、作曲家名）を考慮せず、1回目の聴取では作品全体の印象を重視せずに詳細説明に早く入りすぎる（Lille, 2008, [p. 58]; 2009, [p. 65]; 2011, [p. 31/40]）」「曲の一般的な性格、ニュアンス、テンポ、様式などを含む全体像の説明をしない（Lille, 2009, [p. 65]）」「1回目の聴取では作品全体の印象を重視し、それから明らかな特徴に着目すべきである。音の重要要素を思い浮かべ、考えること（Lille, 2011, [p. 31/40]）」といった講評がある。審査員が推奨する音楽の聴き方とは、聴く「型」（パターン）を習得する必要性を示唆している。すなわち、曲の全体像を把握し、それから何らかの音楽的要素に着目し、曲の細部に耳を傾ける聴くプロセスの習得と解釈される。

(3) 基礎的な音楽語彙の習得と習熟度の問題

音楽聴取の実践を初等教員採用試験の面接時で導入する理由には、受験者の聴く力や聴覚による音楽分析力だけではなく、オラルで説明する力と使用語彙の習熟度を見る目的もある。良く学習されている音楽用語にオスティナート、リズム、テンポ、ドローンが挙げ

られているが（Clermont-Ferrand, 2007, [p. 1]）、「基本的な音楽語彙の習得不足（Reims, 2012, [p. 42/47]）」が、多くの『報告書』で言及されている。また「音の高さと強さの意味の取り違い等など語彙の使用が不慣れ、テンポの概念理解、拍動、拍子に関してリズムのどこちなさが見られる（Clermont-Ferrand, 2007, [p. 2]）」「時おり、いくつかの音楽概念（テンポとリズム、高さ強さ等）を混同している（Rennes, 2013, p. 13/23）」といった受験者の実態から、基礎的な音楽語彙の習熟度に関する問題も指摘されている。

おわりに

本稿はフランスの初等教員採用試験における音楽試験「面接」で課される「聴取審査」を対象とし、国家政策として編纂された『音源資料データ集』、そしてアカデミーの審査方針をめぐる実状について概観した。また音楽聴取審査に関する講評を考察した結果、面接後半のプレゼンテーションの評価を左右する、受験者に期待される音楽の聴き「型」と音楽を聴く際の視点となる「音楽要素」を示す内容事項が明らかとなった。さらに、受験者の音楽語彙の習熟度問題の存在についても把握することができた。

初等教員採用試験を対象とした本稿ならびに筆者の先行研究における、フランスの初等教員に求められる音楽能力に関する考察では、『報告書』に見る受験者の実態把握について、特に「演奏」と「聴取」の2つの技能面に焦点をあててきたが、将来初等教員を目指す者の知識・教養および教員としての資質に関わる考察を残している。この観点から、最近の『報告書』では『初等学校プログラム』に新設された「芸術史教育」（Enseignement de l'histoire des arts）について言及されている。「芸術史教育」は2008年9月からフランスの小学校教育に導入され、その中に「音楽史」の学習も含まれる。クレルモン＝フェラン・アカデミーの聴取曲リスト（資料3）の項目欄に記されているように、初等教員採用試験で音楽科目を選択する受験者は音楽の重要要素の習得のみならず、音楽史の知識も必要とされる。「芸術史教育」のプログラムを理解し、その教育内容を汲み取りつつ音楽教育の実践を展開していく力は、演奏力、聴取力と共に、初等教員に求められる重要な基礎的資質・能力であろう。

【謝辞】CRPE試験官を勤め、資料1・2の出典資料を執筆したりモージュ・アカデミー視学官であるA.ドゥファイ女史、同じくリモージュ・アカデミーCRPE試験官で『音源資料データ集』の編纂に携わった経験をもつ音楽教育顧問Y.ブリアンスレ氏は、快くインタビューを引き受けて下さった。そしてパリ・アカデミーの視学官V.マエストラッチ氏は、内部資料である『音源資

料データ集』を提供下さり、本研究を遂行するにあたり多大なご協力を頂いた。この場を借りて心から御礼申し上げます。

註

- ¹ Académie de Strasbourg, “1.3. Musique”, *CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES (C.R.P.E.) Session 2011 – RAPPORT DU JURY DE L’ACADEMIE DE STRASBOURG*, p. 19/27.
- ² フランスの初等教員採用試験の『報告書』は、以下のHPで公表されている。
<http://www.education.gouv.fr/cid4413/rapports-de-jurys.html> (2011年8月9日～10日, 2013年8月21日～22日にアクセス)
- ³ V. マエストラッチ氏 (2012年5月18日, Ministère de l’Enseignement supérieur et de la recherche – Salle 4B62 : Groupe Enseignements et éducation artistiques Inspection générale de l’éducation nationale, 31–35, rue de la Fédération 75015 Paris 於), A. ドゥファイ女史およびY. ブリアンスレ氏 (2012年3月28日, Ecole élémentaire Joliot-Curie, 54, Avenue du Maréchal Juin 87000 Limoges 於) とのインタビューで得られた情報。註4および6～10のインタビュー実施日時・場所は上記と同一であるため、記載を省略する。
- ⁴ V. マエストラッチ氏とのインタビューで得られた情報。2011/2012年度のCRPEでも使用されることを確認している。
- ⁵ 『音源資料データ集』にも収録されている《Bransle de la Montarde》の「教育カード」を、拙稿「フランスの初等教員に求められる「音楽能力」に関する一考察 – IUFM・教員採用試験関連資料の検討から – 」『愛知教育大学研究報告』第60輯 (芸術・保健体育・家政・技術科学・創作編), 2011, p. 25]で紹介している。なお受験者へのアドバイスとしてストラスブル・アカデミーの『報告書』には、サイト (<http://www.educnet.education.fr/musique>) が紹介され (Strasbourg, 2009, p. 43), 43の抜粋曲の聴取と教育カードの閲覧が可能である。現在、このサイトは <http://www.educscol.education.fr/musique/index.htm> に変更されている。
- ⁶ V. マエストラッチ氏とのインタビューによる。
- ⁷ 同上。
- ⁸ A. ドゥファイ女史およびY. ブリアンスレ氏とのインタビューで得られた情報に基づく。
- ⁹ リモージュ・アカデミーのY. ブリアンスレ氏によれば、視学官1名、音楽教育顧問2名で構成される。
- ¹⁰ V. マエストラッチ氏とのインタビューから。

引用・参考文献

“Modalités d’organisation du concours externe, du concours externe spécial, du second concours interne, du second concours interne spécial et du troisième concours de recrutement de professeurs des écoles – Annexe I A – Epreuves du concours externe de recrutement de professeurs des écoles”, *B.O.* no 21 du 26 mai 2005, pp. 1069–1070. Ministère de l’Education nationale, *Banque nationale de documents sonores 2006*, [217 p].

“Cycle des apprentissages fondamentaux – cycle 2 : Education musicale”
“Cycle des approfondissements – cycle 3 : Education musicale”, *B.O. numéro hors-série (19-6-2008) : Horaires et programmes d’enseignement*

de l’école primaire, p. 16, p. 26.

“Arrêté du 28 décembre 2009 fixant les modalités d’organisation du concours externe, du concours externe spécial, du second interne, du second concours interne spécial et du troisième concours de recrutement de professeurs des écoles – Annexe II. – Epreuves d’admission, *Journal officiel* no 0004 du 6 janvier 2010, page texte no 22.

Académie d’Amiens, “Option “musique” ”, *RAPPORT DE JURY DES EPREUVES DU CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES SESSION 2012*, pp. 11–12.

Académie d’Aix-Marseille, “Option Musique”, *Concours externe de recrutement des professeurs des écoles Session 2012 : Epreuves orales d’admission*, pp. 9–10/10 .

Académie de Besançon, “Musique”, *RAPPORT DE JURY PROFESSEURS DES ECOLES CONCOURS EXTERNE PUBLIC TROISIEME CONCOURS PUBLIC SESSION 2008*, [p. 18].

Académie de Caen, “Musique”, *LES CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES concours externe et troisième concours RAPPORT DE JURY session 2007*, pp. 13–14 ; “d. 2c Musique”, *session 2008*, pp. 12–14 ; “d. 2. C. Musique”, *session 2009*, pp. 17–19.

Académie de Caen, “a.2.2 musique”, *LES CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES Session 2012 RAPPORT DE JURY 2ème partie : ADMISSION*, pp. 5–6.

Académie de Clermont-Ferrand, “RAPPORT DU JURY DU CONCOURS EXTERNE DE PROFESSEUR DES ECOLES EPREUVE ORALE DE MUSIQUE”, *Rapport du jury session 2007*, [pp. 1–2].

Académie de Clermont-Ferrand (Philippe LEOTOING), “II. Epreuve de musique”, *Rapport du jury du concours externe et du troisième concours de recrutement de professeurs des écoles CRPE PUBLIC – session 2008*, [pp. 10–11] ; *session 2009*, [pp. 11–12].

Académie de Clermont-Ferrand, “8.6 Epreuve optionnelle de musique”, *RAPPORT DE JURY Concours de recrutement des professeurs des écoles Session 2011 Epreuve d’admission*, pp. 43–46 ; *Session 2012*, pp. 39–43 ; *Session 2013–1*, pp. 33–36.

Académie de Créteil, “III.4.2 – Domaine de la musique”, *CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES RAPPORT DE JURY Session 2011*, pp. 22–23.

Académie de Grenoble, “Domaine de l’éducation musicale”, *RAPPORT DE JURY DU CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES SESSION 2007 Deuxième partie*, [pp. 5–7] ; *SESSION 2008*, [pp. 66–67] ; *SESSION 2009*, [pp. 5–7/10] ; *SESSION 2010*, [pp. 5–7/10].

Académie de Grenoble, “4.3. MUSIQUE (EXPRESSION MUSICALE)”, *CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES Externe public – Externe privé – Troisième voie EPREUVE D’ADMISSION SESSION 2012 RAPPORT DU JURY*, pp. 12–14.

Académie de Grenoble, “4.3. MUSIQUE (EXPRESSION MUSICALE)”, *CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES Externe public – Troisième voie – Externe privé – Second concours interne privé EPREUVE D’ADMISSION SESSION 2013 RAPPORT EXTERNE*, pp. 12–13.

Académie de Lille (Pierre HAUTECŒUR), “Option《Musique》”, *RAPPORT DES EPREUVES DES CONCOURS EXTERNE ET 3ème VOIE DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES SESSION 2006*, pp. 17–24 ; “Domaine de la Musique”, *session 2007*, [pp. 51–57].

Académie de Lille (Pierre-Marie FONTAINE), “RAPPORT DU JURY SECONDE PARTIE DE L’ORALE D’ENTRETIEN DOMAINE :

MUSIQUE”, *RAPPORT DES EPREUVES DU CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES SESSION 2008*, [pp. 55–58] ; “DOMAINE : MUSIQUE”, *SESSION 2009*, [pp. 63–67]. Académie de Lille (Pierre-Marie FONTAINE), “RAPPORT DU JURY SECONDE PARTIE – ADMISSION – EPREUVE AU CHOIX : MUSIQUE”, *Session 2011*, [pp. 28–32/40] ; “Rapport de jury pour l’épreuve orale de musique”, *Session 2012*, [pp. 36–40/59]. Académie de Lyon, “3.1.2.2. Musique”, Concours externe de recrutement de professeurs des écoles (CRPE) Session 2012. Rapport du jury, pp. 15–16. Académie de Montpellier, “Epreuve Optionnelle de Musique (8 points)”, *Concours de recrutement de professeurs des écoles (CRPE) Rapport de Jury Session 2011*, pp. 43–44. Académie de Nancy-Metz, “4 – Musique”, *CONCOURS EXTERNE DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES Rapport du jury Epreuves d’admission Session 2012*, pp. 14–16. Académie de Nantes, “MUSIQUE”, *RAPPORT DE JURY Concours de recrutement de professeur des écoles Session 2011*, [pp. 22–23/28] ; “3-2 Musique”, *Session 2012*, [pp. 15–16/24] ; “Partie 2 : l’option Musique”, *Session 2013*, p. 3. Académie de Nice, “Domaine de la musique”, *Rapport de jury du CRPE : épreuves orales, session 2010–2011*, p. 6, p. 11. Académie de Paris, “5 – PRECISION CONCERNANT LE DOMAINE DE LA MUSIQUE”, *RAPPORT DE JURY CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES Session 2010*, pp. 75–77/96. Académie de Reims, “Epreuve orale d’admission no 1 Domaine de la Musique”, *CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS*

DES ECOLES RAPPORT DE JURY DE LA SESSION 2009, pp. 32–33 ; *SESSION 2010*, pp. 28–29 ; “TV / Education musicale”, *SESSION 2012*, p. 42/47. Académie de Rennes (Lionel MORVEZEN), “Domaine de l’expression musicale”, *CONCOURS DE RECRUTEMENT PROFESSEURS D’ECOLE (enseignement public session 2007) RAPPORT du JURY*, p. 46 ; *session 2008*, pp. 44–46 ; *session 2009*, pp. 39–41. Académie de Rennes (Lionel MORVEZEN), “4. Seconde partie (au choix du candidat) : domaine de la musique (expression musicale)”, *Concours de recrutement de professeurs des écoles Session 2012 Rapport du jury Epreuve d’admission*, [pp. 12–15/39] ; *Session 2013*, [pp. 12–15/23]. Académie de Strasbourg, “DOMAINE DE LA MUSIQUE”, *Rapport annuel – CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES Session 2007 – Concours externes et 2nd concours interne spécial*, pp. 38–41 ; *Session 2008*, pp. 38–41 ; *Session 2009*, pp. 40–43. Académie de Strasbourg, “1.3. Musique”, *CONCOURS DE RECRUTEMENT DE PROFESSEURS DES ECOLES (C.R.P.E.) Session 2011 – RAPPORT DU JURY DE L’ACADEMIE DE STRASBOURG*, p. 19/27.

【付記】本研究はJSPS 科研費 23531186 の助成を受けている。

(2013年9月26日受理)

【資料1】リモージュ・アカデミー CRPE 音楽試験 演奏曲・聴取曲一覧 (2007/2008年度)

No	演奏		音楽聴取
	声楽・器楽	作曲家 / 演奏家等《曲名》	作曲家・演奏家等《曲名》
1		C. ドビュッシー 《小さい羊飼》	ハイチの伝統的な歌
2	ピアノ	C. ドビュッシー 《小さい羊飼》	ハイチの伝統的な歌
3	クラリネット	F. シューベルト 《子守唄と変奏曲》	ジャズと伝統音楽
4	歌	S. ゲンズブール 《Les petits papiers》	M-R. Delalande 《Fêtes sur le canal de Versailles》
5	ピアノ		ドイツの現代の歌
6	歌	C. ヌガロ 《Le jazz et la java》	G. マーラー 《交響曲》ニ長調
7	アコーディオン	Renato Bui 《Etude No.3》	Sheila Chandra (インド) 《Speaking in langues》
8	フルート	Sergi A 《Yavari et》	Joe Satriani (ポップ・ロック) 《Swifins with the alien》
9	歌	Maxime Le Forestier 《La petite fugue》	A. W. モーツァルト 《レクイエム》ニ短調 KV626
10	歌	Patrick Bruel 《Qui a le droit》	マイルス・デイヴィス (ジャズ) 《All blues》
11	ジャンベ	不詳 《Fatou Faye》	G. Allegri 《Miserer》
12	歌	J. レノン 《Let it be》	J. Savall 《Musique de Musique de la Renaissance》
13	歌	C. トレネ 《Un jardin extraordinaire》	C. サン＝サーンス 《死の舞踏》
14	歌, ギター, ハーモニカ	ボブ・ディラン 《Blowin’ in the wind》	G. ビゼー 《カルメン》より 《Avec la garde montante》
15	歌	Les Innocents 《L’autre finistère》	D. ミヨー 《屋根の上の牛》
16	歌	C. ヌガロ 《Armstrong》	C. ドビュッシー 《弦楽4重奏曲》
17	歌	L. ウルジ 《Le pouvoir des fleurs》	シドニー・ベシエ 《J’ai deux amours》
18	歌	Maxime le Forestier 《Education sentimentale》	伝統的な音楽 《Hava naguila》
19	歌, ジャンベ	アフリカの伝統音楽 《Moribayasa》	Padilla 《Fluide》
20	歌, ギター	Delanoé / Koempfert 《Le lion et la gazelle》	H. パーセル 《Didon et Enée》
21	歌, ピアノ	Zazie / Phil Baron 《J’envoie valser》	Porteno / A. ピアソラ 《Summer in Bueno aires : Verano》
22	歌	C. ヌガロ 《La pluie fait des claquettes》	R. ワーグナー 序曲 《幽霊船》
23	歌	J. Milchberg / P. Simon 《El condor Pasa》	A. マルチェロ 《オーボエ協奏曲》
24	歌	M. ベルナルル 《Maria Szusanna》	A. W. モーツァルト / H. de Courson (CD : Mozart l’égyptien より) 《Alatul concerto pour kaval et flûte》
25	歌	H. Arlen. E. Y. Harbung 《Over the raibow》	Alfonso X El sabio 《Cantigas de Santa Maria : Madre de Deux》
26	歌, ギター	C. Tarquiny / C. Battaglia 《Aux arbres citoyens》	Ellington / Russell 《Don’t get around much anymore》
27	歌	Ridan. Alain Félix 《Ulysse》	B. プリテン 《戦争レクイエム》

出典 : Académie de Limoges (Annie DEFAYE), “Musique : Liste des œuvres présentées / proposées au CRPE ACADEMIE DE LIMOGES – SESSION 2008”, *RAPPORT DE JURY Concours Recrutement des Professeurs d’école – SESSION 2008 EPREUVE ORALE D’ENTRETIEN PRE-PROFESSIONNEL*, [pp. 7–8].

【資料2】 リモージュ・アカデミーCRPE音楽試験 演奏曲・聴取曲一覧 (2008/2009年度)

No	演奏		音楽聴取	
	声楽・器楽	作曲家・演奏家等《曲名》	作曲家・演奏家等《曲名》	音源
1	歌	J. フェラ 《Nuit et Brouillard》	C. ジャヌカン 《鳥の歌》	CD1-37
2	歌	伝統音楽 《Down in the river to pray》	M-R. Delalande 《Fêtes sur le canal de Versailles》	CD2-8
3	歌, ギター	Cocoon 《On ma way》	A. ヴェルディ 《イル・トルヴァトーレ》	CD2-39
4	歌	J. プレヴェール / J. コスマ 《枯葉》	Lalo / Schifrin 《Mission impossible》	CD6-14
5	歌, ギター	Cabrel 《Cent ans de plus》	不詳 《Livre vermeil de Monserrat》	CD1-33
6	歌, ギター	Les ogres de Barback 《Qui m'a piqué mes bruits》	ベニー・モーテン 《Atomic Basie》	CD5-19
7	歌, ギター	Baster 《Maazel Vodou》	Chanson plus biflourée 《Le moteur à explosion》	CD3-25
8	歌	Ronsard : Chardavoine 《Mignonne allons voir si la rose...》	A. ピアソラ 《Verano Porteno》	CD1-10
9	歌	L. フェレ 《Le temps du Tango》	Tri Yann 《Complainte Galloise》	CD3-30
10	ヴァイオリン	アイルランドの伝統音楽 《Danny Boy》	D. ミヨー 《屋根の上の牛》	CD6-25
11	歌	S. ゲンズブル 《Les P'tits papiers》	H. パーセル 《Didon et Enée》	CD2-10
12	歌	G. ガーシュウィン 《Summerside》	B. ブリテン 《戦争レクイエム》	CD3-35
13	歌	Zazie 《J'envoie valser》	A. Cego 《Mar》	CD7-14
14	歌	Maxime Le Forestier 《Né que part》	レスター・ヤング / Les double six 《Tickle toe》	CD6-8
15	歌	Maxime Le Forestier 《Le petite fugue》	エリック・セラ 《It's only mystery》	CD3-19
16	歌	Bassiak 《Le tourbillon》	O. レスピーギ 《La poule》	CD3-11
17	歌	E. ビアフ 《愛の讃歌》	La compagnie des bons tuyaux 《Faut de l'eau》	CD3-26
18	歌	Renaud 《Morts les enfants》	G. マーラー 《交響曲第1番》	CD2-34
19	クラリネット	伝統音楽 《Retz Israel》	C. スガロ 《La langue de bois》	CD7-11
20	歌	Alan Menken 《L'air du vent》	A. W. モーツァルト《レクイエム》より《Confutatis》	CD2-28
21	ハープ	A. シャラン 《Brocéliande》	伝統的な音楽 《La tarara》	CD1-9
22	歌	E. シモン 《Fleur de saison》	Avshalom Cohen 《Agala im Susa》	CD3-7
23	歌	Nena 《99 Luftballons》	Led Zeppelin 《Black Mountain》	CD5-27
24	歌	Bassiak 《Le tourbillon》	C. オルフ 《O fortuna》	CD4-16
25	ヴァイオリン	J. S. バッハ 《アリア》	Ensemble Melpomen 《Akousate》	CD1-1
26	歌	PJ Harvey 《The Dancer》	L'orchestre de contrebasses 《Bass bass bass》	CD5-28
27	歌	Mahmoud tété Niang 《A la faveur de l'automne》	不詳 《La Rotta》	CD1-32
28	歌	Tri Yann 《La ville que j'ai tant aimée》	バッハ 《フーガ》ト短調	CD2-18
29	ピアノ	E. サティ 《ジムノペディ第1番》	Jorge Menezes 《Mas que nada》	CD6-28
30	歌	Y. デュトウイユ 《La langue de chez nous》	J. ケージ 《First construction》	CD4-22
31	アコーディオン, 歌	《Mon amant de St. Jean》	J. ハイドン 《交響曲第94番》	CD2-24
32	歌	Trois perroquets 《A la Claire fontaine créole》	Mouret 《Ouverture de la 1ère suite de fanfares》	CD2-20
33	歌	P. シャテル 《L'autuche》	伝統音楽 《ハンガリーのジプシー音楽》	CD1-16
34	歌	Vian 《La complainte du progrès》	Morricone 《Le bon, la brute de le truand》	CD6-15
35	歌	Pive eau 《Dis-moi, dis-moi》	M. ラヴェル 《美女と野獣の対話》	CD7-12
36	ピアノ	C. ドビュッシー 《La neige tombe》	C. サン＝サーンス 《死の舞踏》	CD3-4

出典：Académie de Limoges (Annie DEFAYE), "MUSIQUE – ACADEMIE DE LIMOGES – SESSION 2009", *RAPPORT DE JURY Concours Recrutement des Professeurs d'école – SESSION 2009 EPREUVE ORALE D'ENTRETIEN PRE-PROFESSIONNEL*, [pp. 7-9].

資料1・2共に作曲家・演奏家名と曲名の多くは原語表記にしているが、些細なミスや不備な点が多く見受けられたため、必要に応じて加筆・修正し、また若干体裁を整えた箇所もある。掲載順に基づき、番号は便宜上、筆者が付した。

【資料3】クレルモン＝フェラン・アカデミー CRPE 音楽試験 聴取曲一覧
(2010/2011 年度：no. 1-8；2011/2012 年度：no. 9-22；2012/2013 年度：no. 23-35)

No.	作曲家 / 演奏家	曲名	時代・スタイル	編成・組織・楽器	手がかりとなる要素
1	不詳	Old hag	アイルランドの伝統音楽	伝統的なオーケストラ	ダンス（ジーク）
2	不詳, Hesperion XX / J. Savall	Musique de joye	16世紀, ルネサンス	古楽器	ダンス, 並行性と垂直性, 楽器グループ
3	シャルパンチエ	Te Deum	17世紀	オーケストラ	コントラスト
4	Compagnie des bons tuyaux	Faut de l'eau	20世紀, シャンソン・フランセーズ	ブラスバンド, 唄れた声	テンポの速い行進曲, 抑揚のある口調
5	Alain Savouret	La dictée (バロック・ソナタ)	20世紀, 現代的	電子音楽	婉曲的なテーマ, 音の情景
6	ボビー・マクファーリン	Mass	20世紀, ジャズ	声, 楽器	声で表現された打楽器, オスティナート
7	シドニー・ベシエ	J'ai deux amours	20世紀, ジャズ	ジャズ・オーケストラ	シャンソンの借用, ジャズ・オーケストラ
8	バッハ / Lambarena Bach to Afrique	Sankanda	20世紀, ワールド・ミュージック	声と楽器	オスティナート, 重畳法
9	アフリカ音楽, Niger	歌	社会的性格をもつ伝統的な歌	ソリスト, 合唱	問いと答え
10	José Parada	Mélo-flûte des andes-Lama	アンデスの伝統音楽	伝統楽器	伝統音楽, 単純な旋律, 楽器
11	バッハ	組曲 口短調	18世紀, バロック	器楽	ダンス
12	バッハ	マニフィカト	18世紀, バロック	合唱, オーケストラ	導入部の模倣
13	マルチェロ	オーボエ協奏曲	18世紀, 協奏曲	オーボエ独奏者, オーケストラ	拍動, ソリスト, 垂直性
14	サン＝サーンス	動物の謝肉祭より《化石》	19世紀, 描写的	室内楽	模倣, 引用
15	ヴェルディ	イル・トルヴァトーレより《ジプシーの合唱》	19世紀, ロマン派	交響曲	オスティナート, 音響ブラン
16	レスピーギ	La poule	20世紀, 描写音楽	交響曲	高さ, 強さの対比, フレージング
17	Steve Waring	Chanson puzzle	20世紀, フランスの子どものシャンソン	ア・カベラによる声楽曲	声を使った遊び, 言葉の分解
18	ジュアン・アラン	Complainte de Jean Renaud	20世紀, ア・カベラによる多声合唱	4部合唱	現代的和声, フランスのシャンソン・ポピュレール
19	ロドリゴ	アランフェス協奏曲	20世紀, 古典的	ギターとオーケストラ	スペイン, 交替, 対立, 反復, 装飾
20	ルロイ・アンダーソン	L'horloge	20世紀, 現代的	ハーモニー	拍動, 規則性
21	ディ＝ジャチント・シエルシ	Khoom	20世紀, 現代的	声, 楽器	朗読
22	ザップ・ママ	Take me coco	20世紀, ワールド・ミュージック	ア・カベラによるヴォーカル・アンサンブルグループ	オスティナート, 集積
23	不詳	Akousat	古代ギリシャ, 復元	頭声, 機械	音響効果, 震わせた声, ダンス
24	不詳	Dlo cho épi kako (子どもの歌)	ハイチとグアドループ島の伝統音楽	独奏者, 合唱, パーカッション	クレオールという言葉, 同一のフレーズを繰り返す独奏者と合唱隊の交互歌唱
25	不詳	Old Hag	アイルランドの伝統音楽	伝統的なオーケストラ	ダンス（ジーク）
26	バンキエリ	Barca di Venetia per Padova (対話)	16世紀, イタリア・ルネサンス	ヴォーカル・アンサンブル	音域, 構成
27	バッハ / スウィングル・シンガーズ	フーガ 第2番 ハ短調	18世紀 / 20世紀の編曲	混声合唱	フーガ, カノン, オノマトペ, スキャット
28	バッハ	フーガ ト短調	18世紀, バロック	金管5重奏	フーガ
29	バッハ	アンナ・マグダレーナの音楽帳より《ミュゼット》	18世紀, バロック, ダンス組曲	ギター	問いと答え
30	ピゼー	アルルの女より《カリヨン》	19世紀, ロマン派	交響曲	オスティナート, 音響ブラン
31	ショスタコヴィッチ	ジャズ・オーケストラのための組曲 第1番	20世紀, 古典的	ジャズ・オーケストラ	力強い3拍子, ダンス, イメージにおけるソリストと加速関係
32	レスター・ヤング, Les Double six	Tickle Toe	20世紀, ジャズ・ヴォーカル	声, コントラバス, ドラム	即興, 超絶技巧, スウィング
33	モーツァルト / H. de Courson	Al Maghfera	20世紀, アフリカ音楽とモーツァルトの音楽の混合	声, 合唱	装飾, 声・合唱・ソリストの混合
34	ヴィヴァルディ / スウィングル・シンガーズ	Estro Harmonico / Going Baroque	20世紀, ポピュラー音楽, 編曲	合唱	バロック再評価
35	ヘンドリックス / Evans	Voodoo Chile	20世紀, ロックとジャズの編曲	ビックバンド	対話

出典：Académie de Clermont-Ferrand, "Epreuves d'admission : 8.6.3 Liste des œuvres données à entendre aux candidats", *RAPPORT DE JURY Concours de recrutement des professeurs des écoles Session 2011*, pp. 44-45 ; *Session 2012*, pp. 40-41 ; *Session 2013-1*, pp. 34-35.
掲載順に基づき, 番号は便宜上, 筆者が付した。